

# 公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

## 平成27年度事業報告（詳細版）

### I. 公益目的事業

#### 1. 農林水産・食品分野における試験研究及び技術開発に功績ある者の表彰

##### 1) 農業技術功労者表彰

農業技術・経営の研究又は技術普及に顕著な功績を挙げた功労者(平成27年4月1日時点において40歳以上)を対象とする農業技術功労者表彰事業を以下の要領で実施した。

主 催：農林水産省、(公社)農林水産・食品産業技術振興協会

公募期間：平成27年6月30日(火)～9月1日(火)

選考委員会(座長；梶浦 一郎氏(東京農業大学客員教授))：

10月20日(火)農林水産省技術会議委員室にて開催、表彰候補6件を決定した。

11月27日(金)に受賞者をプレスリリースにて公表した。

表彰式典：12月18日(金)三會堂ビル石垣記念ホールにて11時より表彰式を開催、協会から副賞を贈呈した。

##### 受賞者

水稻育苗箱全量施肥技術の実用化

金田 吉弘 氏(秋田県立大学生物資源科学部 教授)

イネもみ枯細菌病の生態解明と防除技術の開発に関する研究

角田 佳則 氏(山口県農林総合技術センター資源循環研究室 室長)

現地解決型研究による水田作経営体の経営安定技術の開発と普及

濱田 千裕 氏(愛知県農業総合試験場 場長)

リンドウの育種技術の開発と新品種育成並びに海外展開

日影 孝志 氏(八幡平市花き研究開発センター 所長)

高品質で病害抵抗性に優れる麦類品種の育成と選抜技術の開発

古庄 雅彦 氏(福岡県農林総合試験場農産部 部長)

「きたほなみ」など主要小麦品種の育成と穂発芽極難系統の作出

柳沢 朗 氏(北海道立総合研究機構十勝農業試験場 場長)

##### 2) 第16回民間部門農林水産研究開発功績者表彰事業

民間部門(農業者を含む)における農林水産部門研究の優れた功績を表彰する第16回民間部門農林水産研究開発功績者表彰事業を以下の要領で実施した。

主 催：農林水産省、(公社)農林水産・食品産業技術振興協会

公募期間：平成27年4月10日(金)～6月10日(水)

選考委員会：(座長；春見 隆文 氏(日本大学生物資源科学部教授))

9月1日(火)農林水産省三番町分庁舎会議室にて開催、表彰候補10件を決定した。

10月7日(水) 受賞者をプレスリリースにて公表。

表彰式典 11月18日(水) 12:20～14:00 アグリビジネス創出フェア2015(東京ビッグサイト)のメインステージにて開催。会長より協会会長賞(2件)を授与した。

## 受賞者

### <農林水産大臣賞>

遺伝子組換えカイコを用いたヒト及び動物の診断薬の開発

山下 隼 氏・寺田 崇 氏 (ニッポーメディカル株式会社 研究開発部)

マハタのウイルス病ワクチンの開発

黒田 丹 氏 (日生研株式会社)

倍数体育種技術を活用したリンドウ新品種の育成\*

瀬戸 堯穂 氏・瀬戸啓一郎氏 (有限会社 スカイブルー・セト)

### <農林水産技術会議会長賞 民間企業部門>

簡単に施工できる穿孔暗渠機「カットドレーン」の開発

後藤 幸輝 氏 (株式会社北海コーキ)

牧草サイレージ不良発酵原因の解明とサイレージ用乳酸菌の開発

北村 亨 氏 (雪印種苗株式会社微生物研究グループ)

森林資源を利用したフルボ酸量産化技術の開発

田中 賢治 氏・森 千夏 氏 (国土防災技術株式会社)

スターチス・シネンシス「キノシリーズ」の品種開発\*

吉田 豊 氏・村岡 孝徳 氏・藤井 崇治 氏・寺本 沙織 氏

(福花園種苗株式会社)

藤田 和義 氏 (元福花園種苗株式会社)

### <農林水産技術会議会長賞 農林漁業者部門>

グロリオサの新品種育成と地域ブランドの開発\*

中島 義幸 氏 (農業自営)

### <公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会会長賞>

温泉水と温泉熱を用いた完全循環閉鎖型トラフグ養殖システムの開発

野口 勝明 氏 (株式会社夢創造)

厳冬期でも凍結しない環境配慮型車両消毒装置の開発

内海 洋 氏・山田 幸雄 氏・関村 徹 氏 (株式会社アクト)

田中 一郎 氏 (元帯広畜産大学)

(※印の受賞者には園芸試験場百周年を記念して設けられた「園芸研究功労賞」が併せて授与された。)

## 3) 若手農林水産研究者表彰・交流支援事業

### (1) 第11回若手農林水産研究者表彰事業

優れた功績をあげた若手研究者または将来の技術革新等につながる優れた研究業績をあげた若手研究者(平成27年4月1日時点において40歳未満)を表彰する第11回「若手農林水産研究者表彰事業(農林水産省主催)」に協賛し、選考委員会、表彰式を支援した。

主催：農林水産省、協賛：(公社)農林水産・食品産業技術振興協会

公募期間：平成27年4月10日(金)～6月10日(水)

選考委員会(座長；JATAFF 松本専務理事)：

9月3日(木) 農林水産省三番町分庁舎会議室にて開催、表彰候補5件を決定した。

10月7日(水) 受賞者をプレスリリースにて公表。

表彰式典 11月18日(水)14:10~15:00 アグリビジネス創出フェア2015(東京ビッグサイト)のメインステージにて開催。

#### 受賞者(農林水産技術会議会長賞)

気候変動と魚種交替をつなぐ生物学的メカニズムに関する研究

高須賀 明典 氏(水産総合研究センター中央水産研究所)

分光イメージングによる食品の品質評価技術の開発と実用化

蔦 瑞樹 氏(農研機構食品総合研究所)

森林内放射性セシウムの時空間変動モデリングに関する研究

橋本 昌司 氏(森林総合研究所)

植木類輸出促進に向けた病害虫の防除手法開発に関する研究

山田(武田) 藍 氏(千葉県農林総合研究センター)

主要花きの老化機構の解明と品質保持技術の開発

湯本 弘子 氏(農研機構花き研究所)

#### (2) 若手農林水産研究者支援交流

11月18日(水)「若手農林水産研究者表彰式」に引き続き、東京ビッグサイト会議棟8階802会議室及び8階レストラン「アルポルト」において「若手研究者による異分野交流会」を開催し、受賞者と参加者の意見交換を行った。

#### 4) 農事功績者表彰事業候補者の推薦

公益社団法人大日本農会から6月1日付で推薦依頼があり、松永和久氏、鷺澤幸治氏を推薦したところ、両氏に「緑白綬有功章」が授与された。なお、表彰式及び祝賀会が平成27年11月17日(火)に開催された。

## 2. 農林水産・食品分野におけるイノベーション促進のための支援

### 1) 情報の提供・普及

#### (1) 講演会、セミナー等の開催

記念講演会 6月12日(金)15:00~16:15 共同通信会館5階AB会議室

「日本の養蜂の現状」

農研機構畜産草地研究所 木村 澄 氏

技術情報交流セミナー(三会堂ビル会議室で開催)

第534回 5月18日(月) 飼料用米の調製・利用方法

農研機構畜産草地研究所 野中 和久 氏

第535回 7月17日(金) 東日本大震災の農地・農業用施設等被害と震災教訓による

国際貢献

農研機構農村工学研究所 鈴木 尚澄 氏

第536回 9月29日(火) マツタケ栽培研究の展望

森林総合研究所 根田 仁 氏

第537回 10月29日(木) 植物が持つ病害防御能とその誘導・利用

東京農工大学農学部 有江 力 氏

第538回 12月10日(木) おいしさの認識に関わる研究の最前線

農研機構食品総合研究所 日下部 裕子 氏

## (2) 機関誌の発行、情報のホームページ等での公開

### ア 機関誌「JATAFF ジャーナル」の発行

機関誌「JATAFF ジャーナル」を毎月1日に1,700部を刊行した。

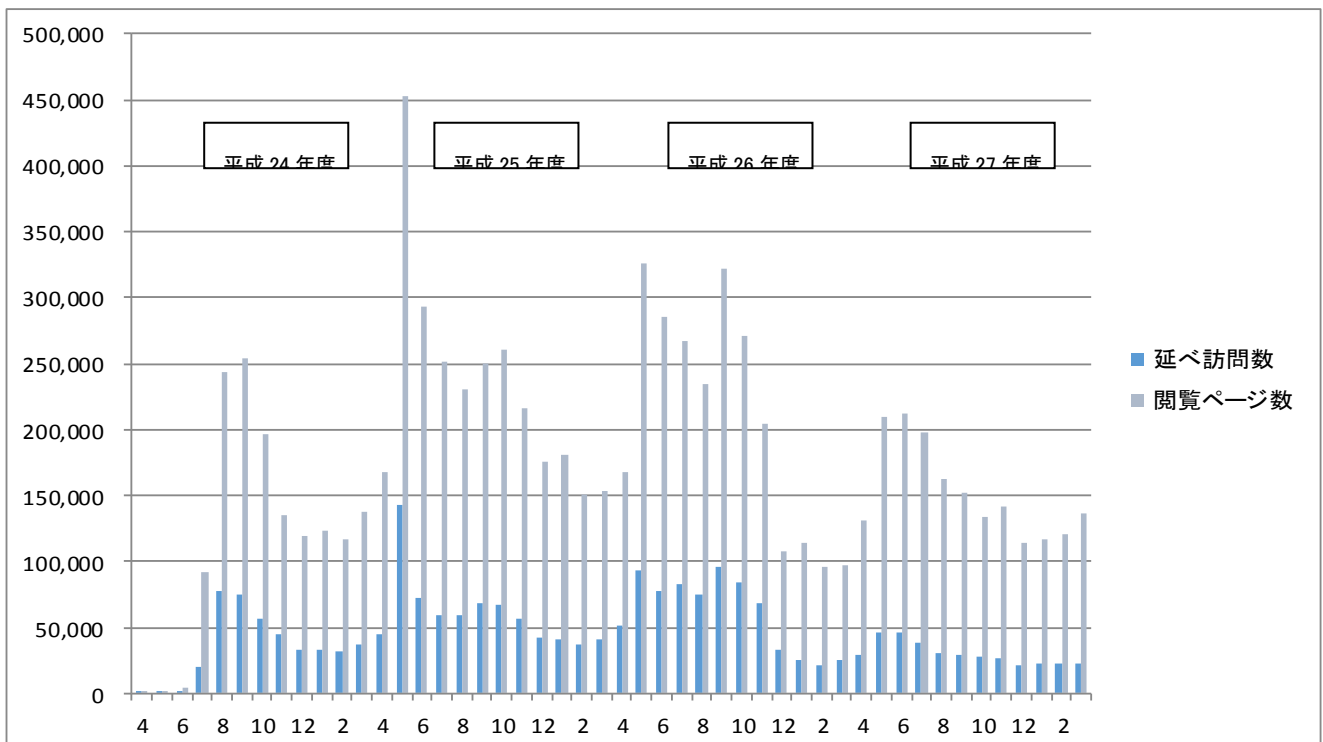
#### 一 特集記事

- 4月号 第10回若手農林水産研究者表彰受賞者の業績
- 5月号 カンキツグリーンング病の根絶に向けた技術開発の現状
- 6月号 牛のアルボウイルス感染症の発生動向と予防戦略
- 7月号 マツタケ栽培技術の開発を目指して
- 8月号 新たな機能性表示食品制度と食品開発の方向
- 9月号 東京電力福島第一原発事故による農林地および農産物の放射能汚染の現状と対策
- 10月号 北海道農業の将来を支える技術開発
- 11月号 果実をおいしく提供する貯蔵・加工技術の最新動向
- 12月号 農産物や食品のおいしさに関する研究の最前線
- 1月号 地域が誇る農の逸品2016
- 2月号 農業における気候変動対策研究の現状と成果
- 3月号 第16回民間部門研究開発功績者表彰受賞者の業績

### イ ホームページ（HP）の運営

- ① コンテンツの充実を図り、情報提供を行った。
- ② 訪問者の推移（図）

ページビュー（閲覧ページ数）は年間約180万、延べ訪問数は約36万件だった。



## ウ メールマガジン「JATAFF ニュース」の配信

イベント、講演会、事業実施情報等をメールマガジンとして、JATAFF 正会員希望者に配信した（67号～90号、号外5号）。

## エ 情報誌「グリーンレポート」作成事業（全農からの委託）

全農が発行する月間情報誌「グリーンレポート」に、公設農業関係試験研究機関等における最新の研究成果情報を収集し、この中から営農に寄与する新技術を選定し、紹介原稿を提供した。

## 2) 新産業の創出、研究開発・成果の普及のための調査・支援

### (1) 事業化を加速する産学連携支援事業

農林水産・食品産業分野における試験研究、及び農・食と素材、医薬、エネルギーなどの異分野との連携を強化した分野横断的な研究開発の推進を支援するため、全国の活動組織を集めたコンソーシアムを組織し、その代表機関として、高度な専門知識を有するコーディネーター（CD）を全国に配置、地域における産学連携活動を一体的に展開して技術シーズの事業化・商品化を図るとともに、全国規模及び地域において技術シーズに関するセミナーを開催する等の事業を実施した。

#### ① 連絡調整会議等

第1回連絡調整会議 6月15日(月) TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター

コーディネーター全国会議 12月9日(水) TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター

第2回連絡調整会議 2月29日(月) TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター

#### ② 事業化可能性調査

第1回募集 6月19日(金)～7月6日(月) (2件登録)

第2回募集 8月3日(月)～24日(月) (1件登録)

第3回募集 9月7日(月)～28日(月) (6件登録)

第4回募集 10月19日(月)～11月11日(水) (5件登録)

第5回募集 11月16日(月)～12月10日(木) (1件登録)

第6回募集 12月14日(月)～1月4日(月) (1件登録)

#### ③ セミナー

- ・アグリ技術シーズセミナー in 沖縄「沖縄の技術シーズを活かした地域産業活性化」

開催日時：1月7日(木) 13:30～17:30

会場：沖縄県立博物館講座室（沖縄県那覇市おもろまち3-1-1）

主催：（公社）農林水産・食品産業技術振興協会、農林水産省

共催：沖縄農業研究会

【特別講演】地域資源を活かした、継続する地域活性化の方策とは

松本 謙 氏 ((株)ファーマーズ・フォレスト代表取締役)

### 【シーズ紹介】

- 1) パインアップルの品種開発と品種特性  
竹内 誠人 氏 (沖縄県農業研究センター名護支所主任研究員)
- 2) 瞬間的高圧処理による柑橘果汁の高付加価値化  
蔵屋 英介 氏 (国立沖縄工業高等専門学校生物資源工学科准教授)
- 3) 沖縄ツバキによる産業化の可能性と取り組み  
田島 勝 氏 (あーびゃーんもーゆ琉球月桃代表)
- 4) ゲットウのもつ可能性を引出し、お客様の声を商品開発に活かす取り組み  
中村 謙 氏 ((株)丸海きあら営業部長)
- 5) 沖縄型植物工場の開発と今後の展開  
川満 芳信 氏 (琉球大学農学部教授)

### 【個別相談会】

- ・アグリ技術シーズセミナー in 北陸 (平成27年度第3回石川県食品技術研究者ネットワークオープンセミナー「地理的表示保護制度(GI)と地域農林水産資源の戦略的技術開発の取り組み」)

開催日時: 1月8日(金) 13:00~17:00

会場: 石川県立大学第2中講義室(K117) (石川県野々市市末松1-308)

主催: (公社)農林水産・食品産業技術振興協会、農林水産省

共催: 石川県食品技術研究者ネットワーク、石川県立大学

### 【特別講演】

- 1) 地理的表示保護制度と国の戦略について~インバウンドへの期待~  
江端 一成 氏 ((一社)食品需給研究センター調査研究部主任研究員)
- 2) 北陸における農林水産物及び加工品の海外展開の状況  
佐藤 真次 氏 (北陸農政局経営・事業支援部地域連携課長)

### 【ワークショップ】

- 1) 農林水産物および加工品の高付加価値化の取組み  
三輪 章志 氏 (石川県農林総合研究センター農業試験場主任研究員)
- 2) 地域資源を活用した高品質な水産加工品の開発  
原田 恭行 氏 (富山県農林水産総合技術センター食品研究所副主幹研究員)
- 3) 雪室育ちの乳酸菌 *Lactobacillus sakei* ウオヌマ株の特長とその利用  
西脇 俊和 氏 (新潟県農業総合研究所食品研究センター主任研究員)

### 【個別相談会】

## ④ 技術交流展示会 (フェア)

- ・アグリビジネス創出フェア2015 11月18日(水)~20日(金) 東京ビッグサイト  
ブース出展 (ICT 獣害対策(IT アグリ研)、ナノセルロース(信州大)、チョウザメとナノバブル(フジキン)、塩彩プロジェクト(生活習慣病予防センター)、コメ油(九州大))  
個別相談、マッチングサポートツアー他
- ・アグリビジネス創出フェア2015 in 東海 (ブース出展)  
11月25日(水) ウィンクあいち
- ・アグリビジネス創出フェア2015 in Hokkaido (ブース出展)

11月27日(金)～28日(土) サッポロファクトリー

⑤ その他の産学連携支援事業

- ・ Bio Japan 2015 10月14日(水)～16日(金) パシフィコ横浜 (ブース出展)
- ・ フード・フォーラム・つくば 11月6日(金) つくば国際会議場 (ブース出展)

(2) 農林水産・食品分野における研究成果の普及状況に関する調査等

ア 「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(農食研究推進事業)における研究成果の普及状況把握・分析調査等に係る業務」委託事業

① 実用技術開発事業等における研究成果の普及状況把握・分析調査等

ア 「新たな農林水産政策を推進する実用化技術開発事業」及び「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」に採択された課題並びに「イノベーション創出基礎的研究推進事業」から「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」に移管された課題のうち平成25年度に終了した79課題を対象とした2年後調査、

イ 「実用技術開発事業」、「高度化事業」において実施され平成22年度に終了した53課題を対象とした5年後調査

を実施し、研究成果に係る普及状況の詳細な把握と課題の分析を行った。普及している課題については経済的波及効果を算出するとともに普及に成功した要因を、普及していない課題についてはその要因と今後の対策を報告書に取りまとめた。

② 研究課題の審査・評価関連事務等

- ・ 平成27年度新規採択研究課題選定の二次(ヒアリング)審査に係る業務

一次書面審査を通過したシーズ創出ステージ29課題、発展融合ステージ29課題、実用技術開発ステージ59課題(うち育種対応型12課題)のヒアリング審査の補助を行った。採択課題(72課題; シーズ創出ステージ17課題、発展融合ステージ18課題、実用技術開発ステージ37課題(うち育種対応型8課題))については採択通知を、不採択課題については評価委員の指摘事項を委託者が取りまとめた不採択課題通知を送付した。

- ・ 平成27年5月25日(月)午前10時30分から12時まで、合同庁舎4号館12階農水省共用会議室において開催された平成27年度新規採択研究課題の研究総括者及び委託契約経理担当者説明会の運営補助事務を行った。

- ・ 平成27年度緊急対応研究課題の選定のための書面審査に係る業務

平成27年6月12日(金)～7月6日(月)(1課題)、8月28日(金)～9月11日(金)(1課題)及び11月20日(金)～12月7日(月)(3課題)に行われた3回の緊急対応研究の募集に対応し、書面審査の補助、結果の取りまとめ等を行った。

- ・ 平成27年9月18日(金)午後1時30分から3時30分まで合同庁舎4号館12階農水省共用会議室にて開催された平成27年度専門PO・総括PO及び研究専門官合同会議(専門PO47名出席)の運営補助を行った。

- ・ 平成27年度研究成果発表会の開催補助

第1回発表会は、平成27年10月13日(火)10:30～16:45、東京大学弥生講堂で開催され、シーズ創出ステージ及び発展融合ステージの26年度終了課題から18課題について

口頭発表及びポスター展示が行われた。

第2回発表会は東京ビッグサイトにおいて開催されたアグリビジネスビジネス創出フェア会場において平成27年11月19日(木)～20日(金)の両日、実用技術開発ステージの26年度終了課題のうち27課題について口頭発表及びポスター展示が行われた。

- ・平成27年度中間評価及び事後評価に係る業務

新たな評価委員候補者として117名の名簿を作成して委託者に提出した。

中間評価は、平成26年度新規課題として採択された26課題（シーズ創出ステージ10課題及び実用技術開発ステージ16課題（うち育種対応型1課題））について実施した。

事後評価は、対象92課題（シーズ創出ステージ29課題、発展融合ステージ13課題、実用技術開発ステージ50課題（緊急対応研究課題5課題を含む））について実施した。なお、シーズ創出ステージ及び発展融合ステージの終了課題についてステージ移行の希望の有無について調査を行い、ステージ移行の希望があった35課題については、ステージ移行審査に報告書を利用することから、ヒアリング審査日程に間に合うよう作業を前倒しして行った。また、全ての事後評価対象課題について、研究成果紹介用冊子「研究紹介2016」原稿の作成を依頼した。

- ・平成28年1月12日(火)全日通会館大会議室において午後1時から開催された平成28年度競争的資金制度等公募説明会(全国)に係る運営等の補助を行った。
- ・シーズ創出ステージ及び発展融合ステージの終了42課題のうちステージ移行を希望した課題についてのステージ移行審査に係る業務を補助した。
- ・平成28年度新規採択課題一次(書面)審査業務補助  
シーズ創出ステージ119課題、発展融合ステージ68課題、実用技術開発ステージ103課題（うち育種対応型研究9課題）の応募があった。
- ・平成26年度に終了した80課題（平成20年度採択1課題、平成22年度採択3課題、平成24年度採択28課題、平成25年度採択10課題、平成26年度採択38課題）を全て収録した研究成果集「研究紹介2015」を作成した。3,000部を印刷、関係機関に配布した。
- ・平成28年度新規採択課題選定のための二次(ヒアリング)審査に向けた業務を実施した。
- ・平成27年度実施研究課題のうち28年度継続予定137課題について、28年度研究計画書及び27年度実績報告書の作成に関する業務を実施した。
- ・受託者から委嘱できる新規課題の書面審査委員に関するデータベースのより一層の拡充を図った。

### ③ 研究課題の進行管理調査等

- ・実施課題の分野別内訳を踏まえ62名の専門POを配置した。
- ・新規課題72件について審査結果や推進会議の結果に基づく研究計画の改善点の指導及び見直しの確認、継続153課題については推進会議の結果や中間評価結果に基づく研究計画の改善点の指導及び見直しの確認を行った。
- ・継続実施138課題、終了87課題について毎年度の研究報告書の査読を行った。

イ 「食料生産地域再生のための先端技術展開事業における研究課題の進行管理調査等に係



## る業務委託事業」

専門P Oを22名配置し、37研究課題の進行管理の支援等を実施した。

### (3) 植物品種の保護、開発等に関する調査研究

#### ア 「植物品種保護戦略フォーラム」の活動

植物品種育成者権の保護とその活用の促進に寄与するために「植物品種保護戦略フォーラム」(会員:約180組織・個人)の事務局を担い、植物品種育成権侵害対策や活用に関する活動として、品種保護制度と知的財産、種苗産業に関する施策、植物遺伝資源などをテーマとした講演会の開催、メーリングリストを通じたフォーラム関係者への情報提供(PVP15-1~100)、登録品種の統一表示マーク(PVP)の普及等に取り組んだ。

- ・6月23日(火) 共同通信会館5階AB会議室にて13:30から総会、14:15から講演会  
講演会プログラム

植物品種保護をめぐる最近の情勢について

農林水産省食料産業局新需要創出課 長野 暁子 氏

日本のカーネーションの美しさを世界に届けたい

～香川県オリジナルカーネーション品種「ミニティアラ」シリーズの育成と海外展開の現状～

香川県農政水産部農業生産流通課 古市 崇雄 氏

農研機構育成品種の海外出願事例紹介

農研機構連携普及部 有田 洋一 氏

- ・企画委員会 9月28日(月) 13:00~15:30 三会堂ビル2階C会議室

ITPGRについて意見交換

- ・ITPGRの状況について農林水産省との意見交換会 2月26日(金) 14:00~

#### イ 「新品種産業化研究会」の活動

研究会には地域経済の活性化につながる植物新品種の産業化を促進するため、法人27機関、個人53名が参加し、関連情報の交換や共同研究の推進等を図った。

- ・総会・記念講演会:7月21日(火)13:15~三会堂ビル2階S会議室にて総会、14:30より大谷敏郎農研機構理事(食総研所長)の「新たな機能性表示食品とバリューチェーンを考慮した今後の食品研究—品種開発から食品開発まで—」と題する講演。

- ・セミナー:5月22日(金) 東海大学校友会会館(霞が関ビル)

ワイン産地形成の急所

コーネル大学教授 テリー・ワクラー 氏

地理的表示制度

東京大学講師 高橋 悌二 氏

- ・講演会「パン産業と小麦」:11月25日(水)13:30~17:00 三会堂ビル2階A会議室

日本での小麦品種改良の現状とこれから

農研機構作物研究所麦研究領域長 小田 俊介 氏

国産小麦の安楽死からの復活再生の道

江別製粉株式会社社長 我孫子 建雄 氏

国産小麦だからおいしいパン

株式会社ル・ステイール代表取締役 西川 隆博 氏

パンのある幸せな食卓

株式会社アンデルセン・パン生活文化研究所理事 豊嶋 朋子 氏

- ・すいおう分科会

運営委員会 5月26日(火) 13:30~15:30 (東洋新薬東京支店)

JATAFFのHPのすいおうコーナーを改訂

「すいおう活用ガイドブック」5,000部を増刷、希望会員に配布。

(<http://jataff.jp/suiou/pdf/suiou-guidebook.pdf>)

#### ・油糧米分科会

総会 5月25日(月) 14:00~16:00 (三会堂ビルB会議室)

講演会 10月7日(水) 13:30~17:00 (三会堂ビルA会議室)

「第2回国際米油会議」(2015年8月6、7日、ムンバイ)の報告

油糧米分科会座長 宮沢 陽夫 氏

一連の脂質分解酵素が欠失したイネの育種

～リポキシゲナーゼ、ホスホリパーゼD、リパーゼが欠失したイネの開発～

農研機構作物研究所 鈴木 保宏 氏

米油の風味と酸化安定性

東京工科大学 遠藤 泰志 氏

米由来原料からのセラミド素材の開発と機能性評価

日本製粉株式会社 宮下 留美子 氏

「金のいぶき」の生産状況について

宮城県古川農業試験場 永野 邦明 氏

米油の原料問題について

ボーソー油脂株式会社 齋藤 典幸 氏

#### ウ 東アジア包括的植物品種保護戦略事業

東アジア各国の植物品種保護(Plant Variety Protection、PVP)制度の整備・充実を支援し、その国際調和を図ることを目的として、各国のPVP制度の現状と課題に関する調査、東アジア植物品種保護フォーラム第8回会合の開催、PVP制度運営に向けた協力活動の推進、ホームページの運営管理、検討委員会の開催等を実施した。

検討委員会(第1回) 6月26日(金)

(第2回) 10月21日(水)

(第3回) 2月3日(水)

東アジア植物品種保護フォーラム会合・シンポジウム 9月2日(水)~4日(金) ソウル

アカシアのテストガイドライン調和会合 9月8日(火)~11日(金) クアラルンプール

インドネシア受け入れ研修 10月25日(日)~28日(水) 長崎

タイ現地調査 11月8日(日)~15日(日)

イネに関する研修 11月24日(火)~27日(金) クアラルンプール

トマトに関する研修 11月30日(月)~12月4日(金) ハノイ

意識啓発セミナー 12月5日(土) ブルネイ

7日(月)、8日(火) ビエンチャン

9日(水)、10日(木) プノンペン

#### エ 農林水産分野における遺伝資源利用促進事業

我が国の遺伝資源利用者による海外遺伝資源の円滑な導入と適切な利用を促進し、画期的な農作物等の新品種の開発促進に資するための本事業のうち、事業の実施主体である三

菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)から業務請負により東南アジア地域での植物調遺伝資源調査を実施した。

検討会(第1回) 6月26日(金)

(第2回) 12月4日(金)

(第3回) 3月7日(月)

インドネシア現地調査 10月18日(日)~24日(土)

ミャンマー現地調査 1月9日(土)~14日(木)

ベトナム現地調査 3月13日(日)~15日(火)

ベトナムと2015年10月~16年9月、インドネシアと2016年3月~17年2月の期間での共同評価LOA (Letter of Agreement) に署名した。

#### オ 海外種苗需要・流通実態調査事業

我が国の種苗業者がベトナムに野菜の種苗等を輸出するために、現地における野菜種苗の生産・流通体制、野菜の需給状況や要求される品質等の総合的な調査を実施した。

第1回検討会 7月31日(金)

第2回検討会 2月5日(金)

ベトナムにおける野菜種子の生産流通等調査 10月4日(日)~11日(日)

#### (4) 6次産業化促進技術対策事業

平成26年度に改訂した食品産業技術ロードマップ集をベースにして新たな健康機能性表示制度を視野にいれ、機能性に関する市場動向調査・分析、生鮮物を想定した機能性成分の簡易測定技術の整理等実施した。結果は報告書として冊子にまとめ、食品の機能性に係わる可能性のある公設研究機関や農林水産物の生産者団体に広く配布した。

第1回食と健康ニーズ検討委員会及び測定技術検討委員会合同会議

8月25日(火) 15:30~17:30

第2回測定技術検討委員会会議

12月1日(火) 14:00~16:00

第2回食と健康ニーズ検討委員会会議

12月4日(金) 14:00~16:00

第3回食と健康ニーズ検討委員会会議

1月27日(水) 14:00~16:00

第3回測定技術検討委員会会議

2月2日(火) 14:00~16:00

第4回食と健康ニーズ検討委員会及び測定技術検討委員会合同会議

3月9日(水) 14:00~16:00

### 3. 農林水産・食品分野における試験研究、技術開発を振興するための助成及び先端産業技術の開発

#### 1) 研究の助成

協会が運営する「新稲作研究会」事業として、我が国の土地利用型農業の活性化及び需要に応じた農業生産の拡大・環境保全に資するため、低コスト稲作、水田高度利用、野菜果樹作等の機械化一貫栽培体系の確立と普及を目的とした試験及び現地実証展示圃事業を、試験研究機関及び普及機関に委託して36課題を実施した。

①平成27年度役員会等の開催

・第1回委員会

日 時：平成27年6月9日(火) 14:00～17:00

場 所：八重洲倶楽部会議室

議 題：1) 平成26年度事業報告及び収支決算について  
2) 平成27年度事業計画及び収支予算について  
3) 平成27年度の推進体制について  
4) 平成28年度実施課題の募集について  
5) 平成27年度中間検討会について  
6) その他 平成27年度成績検討会・講演会等

・第2回委員会

日 時：平成27年11月20日(金) 13:30～15:00

場 所：ヤンマー東京ビル6階会議室

議 題：1) 平成28年度実施課題の選定について  
2) 平成27年度第2回中間検討会について  
3) 平成27年度成績検討会・講演会について  
4) その他

・実施課題審査選考委員会

日 時：平成27年11月20日(金) 10:30～12:15

場 所：ヤンマー東京ビル6階会議室

議 題：平成28年度実施課題の審査選考について

・拡大企画委員会

日 時：平成28年1月25日(月) 10:30～16:30

場 所：ヤンマーミュージアム会議室(滋賀県長浜市三和町6-50)

議 題：我が国農業の今後の方向と農業機械及び農機メーカー等の役割

②平成27年度委託試験・現地実証展示圃の委託課題

36課題について実施した。

	新 規	継 続	計
試 験	12	15	27
展 示	7	2	9
計	19	17	36

③平成28年度委託試験・現地実証展示圃設置等の課題募集

I 大規模水田営農を支える省力・低コスト技術の確立、II 高品質・高付加価値農産物の生産・供給技術の確立、III 水田を活用した資源作物の効率的生産・供給技術の確立、IV 環境保全を配慮した生産技術の評価・確立、V その他の5大課題について募集を行った。

募集期間：7月1日(水)～9月30日(水)

応募件数：38課題(うち継続17、新規21)

実施課題審査選考委員会：11月20日(金) ヤンマー東京ビル6階会議室

内定数

	新規	継続	計
試験	13	14	27
展示	2	2	4
計	15	16	31

④ 中間検討会の開催

・ 第1回現地中間検討会

検討課題：高密度育苗による水稲低コスト栽培技術の開発

日時：平成27年7月10日(金) 9:30～16:00

場所：室内検討会議 石川県農林総合研究センター

現地見学 石川県農林総合研究センター農業試験場内試験圃場  
農業生産法人(株)ぶった農産(石川県野々市市)

・ 第2回現地中間検討会

検討課題：小型収穫機利用による白ネギ収穫作業の省力化・軽労化・低コスト化実証

日時：平成27年11月26日(木) 10:00～14:45

場所：室内検討会議 埼玉県熊谷市めぬま農業研修センター会議室

現地見学 ヤンマーアグリジャパン(株)関東甲信越カンパニー  
妻沼支店構内

⑤ 平成27年度講演会・成績検討会

日時：平成28年3月3日(木) 10:00～19:00

場所：メルパルク東京(港区芝公園2-5-20)

講演会：1) 農業自動化・ロボット化の現状と展望

北海道大学農学部大学院 教授 野口 伸 氏

2) 需要に応じた米生産の推進について

農林水産省政策統括官付穀物課 課長補佐 小口 悠 氏

成績検討会：平成27年度においてⅠ大規模水田営農を支える省力・低コスト技術の確立、  
Ⅱ高品質・高付加価値農産物の生産・供給技術の確立、Ⅲ水田を活用した資源作物の効率的  
生産・供給技術の確立、Ⅳ環境保全を配慮した生産技術の評価・確立の4分野で実施さ  
れた36課題について、委託試験・現地実証展示圃成績の検討を行った。

2) 農林水産・食品産業マイクロ・ナノバブル技術研究組合の事務局活動

・ 27年度第1回理事会及び第6回通常総会 5月13日(水)14:30～ JATAFF 会議室

・ 9月3日(木)13:10～17:00 株式会社前川製作所本社共創ホールにて、公開シンポジウ  
ム「マイクロ・ナノバブル研究の最新情報と応用例～その可能性を含めて～」開催  
植物工場の現状・課題と将来展望 (基調講演)

ー特に環境制御技術やナノバブル技術活用の可能性についてー

千葉大学大学院園芸学研究科 丸尾 達 氏

マイクロバブルで生成する活性酸素測定と光、超音波の併用による水浄化への増強効果

長岡工業高等専門学校物質工学科 村上 能規 氏  
シアノバクテリアの増殖と呼吸に及ぼすナノバブルの影響

東京大学名誉教授 大森 正之 氏  
S I Pの概要とナノバブルの生体への影響・種子の発芽促進のメカニズム

東京大学大学院農学生命科学研究科 大下 誠一 氏  
農産・食品産業へのマイクロ・ナノバブル適用事例の紹介

株式会社前川制作所技術研究所 山上 伸一 氏  
(なお、シンポジウムの講演内容を JATAFF ジャーナルに連載中)

・27年度第2回理事会 3月31日(木) JATAFF 会議室

### 3) 戦略的イノベーション創造プログラム (S I P) の実施

#### (1) 農林水産系のファインバブル技術開発 ((1)-②-2系)

「農林水産系ファインバブル技術開発」研究コンソーシアムの代表機関として、研究の推進、成果のとりまとめ、経理事務の執行等を担うとともに、自らも葉菜類等に対するファインバブル利用マニュアルの作成に取り組む。本年度は、特に、レタス栽培における効果を確認するため、稼働中の植物工場での実証試験に取り組んだ。

27年度第1回研究推進会議 9月25日(金) TKP 東京八重洲カンファレンスセンター

民間の植物工場でのレタス生育促進実証試験 10月5日(月)~11月27日(金)

27年度第2回研究推進会議 2月5日(金) TKP 東京八重洲カンファレンスセンター

#### (2) NBTの社会実装のための社会科学的調査と導入遺伝子残存や変異発生等に関する科学的知見の集積 ((2)-①-4系)

NBTを利用して開発された農林水産物の産業化を推進するための会議の事務局を担当するとともに、国民の受容レベルの推測、上市・普及に供するための具体的戦略・手法の提案に向けて取り組んだ。

実用化戦略会議(第1回) 10月19日(月) 14:00~16:00 三会堂ビル2階A会議室

(打合せ) 3月16日(水) 午後

4系打合せ 12月25日(金) 13:30~17:30 三会堂ビル2階A会議室

種苗会社他JATAFF会員との意見交換会 3月8日(火) 午後

### 4) 農林水産先端技術研究所の活動

#### (1) 畜産研究部

農林水産・食品分野における先端技術に関する研究を実施した。新規課題として平成27~28年度 JRA 畜産振興事業「ゲノム情報活用育種改良推進事業(豚改良へのゲノム情報の活用高度化事業)」を、また継続課題として農林水産省委託プロジェクト研究「DNA マーカー育種の高度化のための技術開発(平24~28)」、「海外からの侵入が危惧される重要家畜疾病の侵入・まん延の防止技術の開発(平25~29)」及び沖縄振興特別推進交付金事業「世界一おいしい豚肉作出事業」のうち「アグー集団で利用可能な DNA チップの開発」(平25~27)を実施した。

畜産研究部が平成27年度に公表した研究成果は、原著英文論文として2報、口頭発表1報であった。10月14日に東京大学弥生講堂で開かれた平成27年度 JRA 畜産振興事業に関する調査研究

発表会において所の成果を「遺伝子解析で成長の速い豚を選び出す方法について」として紹介し、好評であった。

#### ア JRA畜産振興事業、ゲノム情報活用育種改良推進事業（豚改良へのゲノム情報の活用高度化事業）」（平27～28）

消費者ニーズにあった高付加価値を付け、輸入豚肉との差別化に繋がる国産豚肉を生産するために、筋肉内脂肪割合などの肉質を育種改良する方法の開発を目指して、肉質に関連するDNAの解析を行っている。具体的には筋肉内脂肪割合に関連する多型検索候補領域をQTLdb等のデータベース情報を活用して119箇所を選定した。これらの多型検索候補領域について、3集団からの60頭の豚の塩基配列解読によるジェノタイピングを行った。全体で474箇所のSNPを検出し、群間で頻度の異なる53個のSNP(一塩基多型)を27領域に検出し、詳細なジェノタイピングを行うためのプライマーを合成した。

また、事業全体の推進のために、7月16日、所内において、鈴木啓一（東北大学大学院教授）、万年英之（神戸大学大学院教授）、佐藤正寛（東北大学大学院教授）各委員、農林水産省担当官、生物研関係者、共同研究者及び担当研究者19名が参加して、推進検討委員会を開催し、事業の推進方策を検討し、達成目標の確認を行った。

#### イ 「DNAマーカー育種の高度化のための技術開発」（平24～28）

低コストかつ効率的な家畜生産により収益性の高い畜産経営の構築が必須であることから、家畜ゲノム情報を活用して、優良形質をあわせ持つ家畜を効率的に作出するためのDNAマーカーを利用した育種技術を開発することが求められている。次世代シーケンサー等の新たな解析ツールを活用して、抗病性や繁殖性に係る遺伝子を特定し、優れた形質をあわせ持つ家畜を効率的に育種するためのDNAマーカーの開発を進めている。

平成28年1月21日、大石孝雄(東京農業大学教授)、小野寺節(東京大学大学院教授)両運営委員の参加のもと、動物ゲノム推進会議(農林水産省筑波産学連携支援センター)が開催され、研究成果と最終年度前評価のための成果物の取りまとめ方向の検討などが行われた。畜産研究部は以下の5課題を実施した。

##### ① 生産病に対する感受性を支配するゲノム領域の探索

免疫能を指標に選抜された大ヨークシャー種集団(日本ハム株式会社)の免疫能育種価の高低との関連が想定されるSNPのうち、食細胞活性に関連する第2染色体上のLOC10216385について約400頭のPCRとシーケンシングを行い、多型検索を行った。

##### ② 免疫系遺伝子の多様性と抗病性との関連の解明

離乳後多臓器性発育不良症候群(PMWS)により斃死したと考えられる個体が多く見られたデュロック集団の452頭のMX1遺伝子型判別を行い、斃死個体とMX1遺伝子型に有意な関連を認めた。豚MX1のC末8アミノ酸がインフルエンザウイルス増殖抑制に重要であることを示唆する結果を得た。さらに豚MX1の野生型が細胞内および上清中のウイルス量を抑制する傾向を示す結果を得た。

##### ③ ウイルス受容体分子の探索、多様性解析と抗病性との関連の解明

感染させる豚繁殖呼吸障害症候群ウイルス(PRRSV)の株の違いによって、血液中の細胞における宿主側遺伝子の発現様式が異なることを定量PCRで明らかにした。豚ロタウイルスの宿主側受容体のインテグリンファミリーのうち、ITGA4とITGB1のタンパク

質発現ベクターを構築した。ITGA4の多型 検索を次世代シーケンサーで行い、アミノ酸置換を伴う変異3箇所とアミノ酸が変化しない変異5箇所を検出した。

#### ④ ブタの一腹当たり産子数に関連するゲノム領域の探索とDNAマーカーの開発

繁殖性の形質値をもつ民間種豚会社の豚集団347頭を用いたゲノムワイド相関解析の結果、産子数と有意な相関が第7染色体、第14染色体、第15染色体に検出されている。第7染色体の候補遺伝子(黄体ホルモン受容体PAQRS)にSNPを開発し、13個のPCRプライマーを用いて再解析を行ったが、産子数との関連性は認められなかった。PAQR8近傍に着床に関わる遺伝子GCM1が存在したことから、新たな候補遺伝子として選定した。解析集団347頭のジェノタイピングデータを用いて、組換えの無いハプロタイプブロックを推定し、第7、14、15染色体上に候補遺伝子ブロックを設定し、解析を行った結果、ハプロタイプ間の産子数の育種価平均値に差が見られた。

#### ⑤ ウシの繁殖性に関連するゲノム領域の探索とDNAマーカーの開発

黒毛和種集団においてゲノムワイド関連解析により検出された分娩間隔と強い関連を示すSNPがあるSTARD13遺伝子領域の7986bpの塩基を決定し、9個のSNPを検出した。これら9個のSNPと神戸大で解析したSNPを用いて8頭のハプロタイプを推定すると、4種類であり、形質値上位の牛には3種類のハプロタイプが存在していることが判った。

### ウ 海外からの侵入が危惧される重要家畜疾病の侵入・まん延の防止技術の開発

(平25～29)

農水省「食品の安全性と動物衛生の向上のためのプロジェクト」の一環として実施している。HP-PRRSウイルス及び豚コレラウイルスのゲノム解読、地域等のウイルス亜集団を特徴づける塩基配列の検出を目指す。平成27年度は、昨年度までに確立したCORT-MDAと次世代シーケンサーを組み合わせた方法を用いることにより、PRRSウイルスについては血清または肺乳剤から抽出した各ウイルス株のゲノム配列の56%以上、豚コレラウイルスGPE(-)株についてはゲノム配列の約93%を解読できた。

### エ アグー集団で利用可能なDNAチップの開発(平25～27)

沖縄振興特別推進交付金事業「世界一おいしい豚肉作出事業」の一環として、遺伝資源保護、育種改良素材として重要なアグー集団について、SNP等の多型情報を蓄積するために実施した。平成26年度に設計したSNPアレイプローブ(主にアミノ酸置換が生じるSNP、768個)を用い、アグーおよびアグーF1を含む20品種480個体のジェノタイピングを行った。その結果、アグーで固定、西洋品種で多様性が確認されたSNPを50個検出するなど、完全分離ではないもののアグーと西洋品種で多型頻度が大きくことなっていた。次世代シーケンサーデータを基にアレイ搭載SNPの選択基準の有効性が示され、SNPアレイによるアグー集団の遺伝子型判定法の実用性が確認された。

さらにアグーに特徴的なSNPを抽出するために、HiSeq2000により解読した東洋系品種16個体を含むリシーケンシング個体(全80頭)から得られた約67百万個のSNPのうち、アミノ酸変化を伴うSNP(約21万個)について、アミノ酸変化が機能などに及ぼす影響の推定値の取得を行い、情報を蓄積した。さらにリシーケンシング個



体（全80頭）について市販の60K SNP アレイを用いたジェノタイピングを実施した。ゲノム解読から得られたアレル頻度が実際のアレル頻度と強い相関を示したことから、リシーケンシングデータはゲノム配列を偏りなく取得していることが示された。

これらの成果によって、アグー肉質改良への育種マーカー化やアグー豚の遺伝子判別系の構築に利用可能な多型情報の蓄積が進んだ。

## 畜産研究部公表の原著論文、学会発表等一覧

### 原著論文

1. Álvarez B, Escalona Z, Uenishi H, Toki D, Revilla C, Yuste M, Del Moral MG, Alonso F, Ezquerro A, Domínguez J (2015) Molecular and functional characterization of porcine Siglec-3/CD33 and analysis of its expression in blood and tissues. (豚 Siglec-3/CD33 の分子のおよび機能的特性評価とその血液と組織中の発現) Dev. Comp. Immunol., 51(2), 238-250
2. Escalona Z, Álvarez B, Uenishi H, Toki D, Yuste M, Revilla C, del Moral MG, Alonso F, Ezquerro A, Domínguez J (2015) Molecular characterization of porcine Siglec-10 and analysis of its expression in blood and tissues. (豚 Siglec-10 の分子特性評価とその血液と組織中の発現) D Dev. Comp. Immunol., 48(1), 116-123

### 学会発表

1. Takeya Morozumi, Hiroshi Iseki, Daisuke Toki, Toshimi Matsumoto, Michihiro Takagi, Hiroshi Tsunemitsu, Hirohide Uenishi. P029. METHOD FOR DETERMINING THE GENOMIC SEQUENCE OF NORTH-AMERICAN-TYPE PORCINE REPRODUCTIVE AND RESPIRATORY SYNDROME VIRUSES. (北米型豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルスのゲノム塩基配列決定法) International Symposium on Emerging and Re-emerging Pig Diseases. 2015.9.21-24. Kyoto

### 講演会

1. 両角岳哉 遺伝子解析で成長の速い豚を選ぶ出す方法について。平成27年度 JRA 畜産振興事業に関する調査研究発表会。東京大学農学部弥生講堂一条ホール。2015年10月

## 2) 産学連携研究部

### ア 食料生産地域再生のための先端技術展開事業

「生体調節機能成分を活用した野菜生産技術の実証研究」(中核機関; 農研機構食品総合研究所)において、普及支援機関として「機能性成分等を高めた野菜等の実用化・普及のためのプラットフォーム構築」を担当した。機能性成分であるルテインを高含有するハウレンソウを機能性表示食品として事業化することを想定し、ルテイン含量を安定的に高くするための方法論として、寒締め栽培のポテンシャルを評価することを目的として調査を行った。具体的には、宮城県内4圃場より、ルテイン高含有立性1品種および県内代表的寒締め慣行1品種を寒締め前後で採取し、ルテインその他の測定を行った。その結果、これまでの定説を支持する形で、寒締め栽培により有意な糖度の上昇と水分の減少が認められたが、上昇が期待されたルテインは同等かむしろ減少傾向であった。このことから、寒冷暴

露による水分減少を介してルテインが相対的に上昇するとされていた仮説は、該当する局面が限られている可能性が示唆された。従って、寒締め栽培をハウレンソウのルテイン含量を安定的に高めるための方法論として見なすことは、現時点の関連知見だけでは時期尚早と判断された。

第1回専門委員会 10月1日(木) 10:30~12:00

第2回専門委員会 2月9日(火) 10:30~12:00

#### イ 会員企業等との共同研究の実施

- ・ ジャパンアグリバイオ株式会社 (継続)  
「ゲノム解析による網羅的植物ウイルス検定技術の開発」
- ・ 株式会社グリーンソニア (継続)  
「ゲノム解析による植物の有用遺伝子の探索と育種マーカーの開発」
- ・ 株式会社シー・アクト (継続)  
「ゲノム解析による微細藻類の有用遺伝子の探索と選別マーカーの開発」

## II. その他の事業

### (1) 農林水産技術同友会等への協力

#### ア 農林水産技術同友会事務局

幹事会 6月15日(月) 15:00~17:00 三会堂ビル2階S会議室

総会・講演会・懇親会 6月24日(水) 13:30~19:00 法曹会館

新年賀詞交歓会 1月27日(水) 12:00~14:00 法曹会館

#### イ 全国農業関係場所長会事務局

第1回役員会 5月22日(金) 三会堂ビル2階S会議室

第2回役員会・26年度総会・表彰式 6月27日(金) 三会堂ビル石垣記念ホール

第3回役員会 12月9日(水) 三会堂ビル2階S会議室

### (2) 民間育成品種等の公的機関での評価試験委託

会員企業からの要請に基づき、会員企業が育成した品種の評価試験や新資材に関する試験を関係試験研究機関に委託して実施することとし、27年度は3社について6か所で実施した。

### (3) 専門部会活動 (安全性・品質保証部会)

部会活動を通じて、会員活動の充実と、関係官庁、関係業界との情報交換、さらには会員参加による効果的な事業運営を図ることを目的に講演会の開催などに取り組んだ。

#### ・第1回部会講演会

日 時：8月4日(火) 15:30~17:30

場 所：赤坂 T-FRONT 3階会議室

講 演：食品表示基準の概要について～旧制度からの変更点、運用上の留意点を中心に～  
消費者庁 食品表示企画課 新食品表示制度推進チーム長 越野 昭一 氏

#### ・第2回部会講演会

日 時：12月14日(月) 15:30~17:30

場 所：三会堂ビル2階S会議室

講 演：安全・安心を求める消費者と企業のコミュニケーションについて

(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会(NACS)

消費生活研究所 所長 戸部 依子 氏

#### ・第3回部会講演会

日 時：3月23日(水) 15:30~17:30

場 所：赤坂 T-FRONT 3階会議室

講 演：景品表示法に導入される課徴金制度の概要について

消費者庁表示対策課担当官

食品表示基準に基づく製造所固有記号制度の運用について

消費者庁食品表示企画課担当官

### Ⅲ. 総務関係

#### 1. 総会

定時総会 6月12日(金) 13:15~14:45 共同通信会館5階AB会議室

以下の議案を提案・報告し、審議の後、それぞれ承認・議決された。

- 第1号議案 平成26年度決算報告承認の件
- 第2号議案 基本財産の処分に関する件
- 報告事項 平成25年度事業報告及び監査報告  
平成26年度事業計画  
平成26年度収支予算

#### 2. 理事会

27年度第1回理事会 5月21日(木) 10:00~12:00 三会堂ビル2階A会議室

以下の議案を審議、それぞれ承認・議決された。

- 第1号議案 平成26年度事業報告の件
- 第2号議案 平成26年度決算報告の件
- 第3号議案 監事監査報告の件
- 第4号議案 基本財産の処分に関する件
- 第5号議案 運営委員選出の件
- 第6号議案 平成26年度定時総会招集に関する件

27年度第2回理事会 11月4日(水) 11:00~12:00 三会堂ビル2階A会議室

以下の議案が審議・承認、報告された。

- 第1号議案 「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」の施行に伴う関連の整備に関する件
- 第2号議案 入会承認の件
- 第3号議案 代表理事、業務執行理事の職務の執行状況の報告の件

27年度第3回理事会 3月16日(水) 10:00~12:00 三会堂ビル2階A会議室

- 第1号議案 平成28年度事業計画及び収支予算に関する件
- 第2号議案 公募役員候補者選定委員会委員の指名に関する件
- 第3号議案 運営委員の一部改選の件
- 第4号議案 代表理事、業務執行理事の職務の執行状況の報告の件

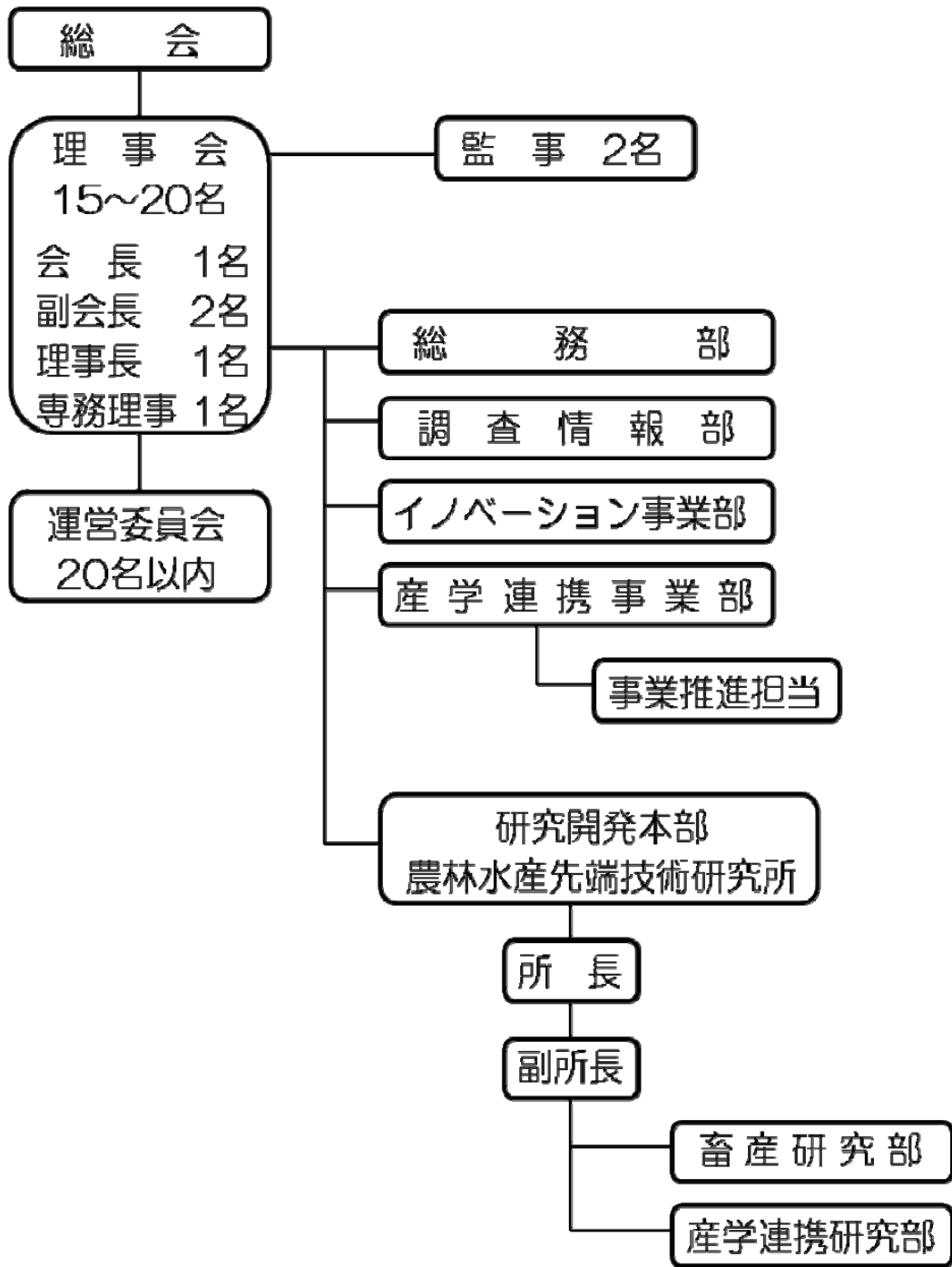
#### 3. 事業監査

5月14日(木)午前9時から10時30分まで当協会会議室において、平成26年度事業について伊藤元久監事、染 英昭監事による監査が行われ、業務の執行は適正であったと認められた。

#### 4. 運営委員会

9月10日(木)午後1時30分より3時30分まで、三会堂ビル2階S会議室において開催した。

JATAFF 組織図 (平 26.4.1 より)



農林水産先端技術研究所